

## 女性医師の活躍

## 研究を進め、社会に還元できる何かを発見したい

糖尿病内科・臨床検査医学 助教 高門 美沙季

私は、もともと早期診断・発症予防を目指す予防医学に興味があり、大学院に進学して糖尿病内科へと進みました。生活習慣が大きく影響する糖尿病は、前段階から医師が介入することで発症を抑えられる可能性があります。これまで、今年で10年目となる東温市民約2500名を対象にした疫学研究である「東温スタディ」を中心に、糖尿病発症前診断や新規検査方法などの研究に携わってきました。

現在、糖尿病内科には8人の医師が在籍しており、そのうち5人が女性です。3人が既婚者で、2人にはお子さんがいて、そのうち1人は外来のみを担当しています。当科は、男女の垣根がなく、教授や准教授も身近に感じられるファミリーのような雰囲気の中、研究や治療方針に加え、身近な事まで親身に相談できる環境が整っています。また、男女関係なく、国内外での学会発表の場が多く与えられており、教授から直接学会発表や論文の指導を受けられるので、キャリアアップにも繋がっています。妊娠・出産・育児などで仕事を休んだとしても、復帰しやすい環境が整っているので、同じ道を歩んでいる先輩医師がいるのは私も心強いです。また、疫学研究が中心ですのであまり時間の制約がなく、論文は自宅など病院外での執筆もできますし、診療だけでなく糖尿病の研究も続けていきたいと考えています。

**PROFILE**

たかかどみさき©2014年愛媛大学医学部卒業。2015年同大学院医学系研究科博士課程入学。2016年愛媛大学医学部附属病院の糖尿病内科・臨床検査医学に入り、2017年より現職。同年、日本内科学会認定内科医を取得する。趣味は3歳から続けているピアノ。